



***Autonomic Nerves
Therapist course***
Basic②-2

内臓と自律神経

日本アレルギーリハビリテーション協会 代表
アレルコア 代表 理学療法士
及川 文宏





Basic②— 2

- 自律神経系と体性神経系の違い
- 内臓と理学療法
- 内臓を評価する理由
- 内臓に関わる上でのリスク管理
- 自律神経の反射性調節
- 内臓に対する徒手的治療概念
- 胸腔内と腹腔内臓器との違い
- 腹部へのアプローチの効果



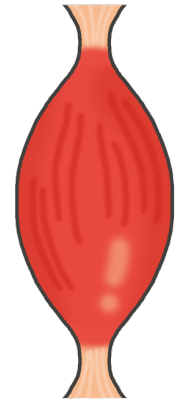
自律神経に元気にする **7つのポイント**

- ①骨の柔軟性の確立とアライメント修正
- ②筋・筋膜の偏りの修正
- ③血液循環を促す（血管への介入）
- ④皮膚の調整
- ⑤**内臓の調整**（腸管系、免疫系、ホルモン調節に関わる臓器など）
- ⑥神経の柔軟性改善
- ⑦脳脊髄液の循環を促す



自律神経と体性神経の違い

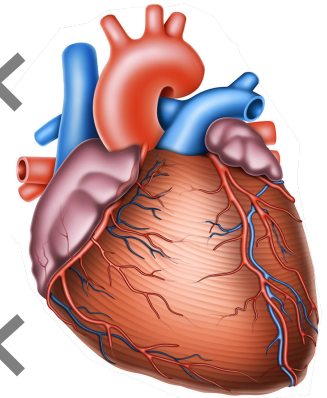
体性神経系



節前線維

節後線維

交感神経系



自律神経節

副交感神経系





内臓と理学療法

- 理学療法における評価・治療の項目の一つ
- 特別な領域ではない
- 新人の筋骨格系の触診と一緒に、触れる経験の少ない内臓の領域の評価・治療には、細心の注意が必要
- リスク管理上、内臓への治療の優先順位は、筋骨格系よりも下げるべき
- 筋骨格系や心理的な障害を取り除いても解決しない問題がある場合には、内臓の要素も頭に入れておく



内臓を評価すべき理由

- 筋骨格系、神経系のスクリーニングをやっても大きな問題が認められない場合、お手上げになってしまう
- 運動療法や徒手療法をどの程度の負荷をかけて良いかというリスク管理上も内臓の評価が必要
- 内臓への介入により、状態が大きく変わることもある



身体の各部位の繋がり

- 同じ神経支配（同じ髄節レベル）
sensor（デルマトーム） ex) 関連痛
motor（〇〇神経）
- 筋膜（骨膜を含む）を通しての繋がり
- 直接、接触している（物理的な刺激入力）
ex) 呼吸に伴う動き



ご清聴ありがとうございました。

- 日本アレルギーリハビリテーション協会 HP
Mail : allergy.rehabilitation@gmail.com



講習会情報はこちら↑

- 及川文宏／アレリハ協会
Fumihiro_Oikawa



- Note : アレルギーとたたかう理学療法士
アレルギー疾患や自律神経の乱れに対する
臨床のヒントを伝える https://note.mu/fumihiro_oikawa

